



ユースリーダーが
企画しました。

ユースリーダーによる取り組み

ユースリーダーセミナー

ジェンダー平等の啓発を主体的に行っている若者をユースリーダーとし、学生を中心とした青年層が、社会や家庭での男女共同参画実現に向けた実践的な方法を学ぶユースリーダーセミナーの第1回講座を11月1日に開催しました。

滋賀県女性活躍推進企業認証制度の認証を受けている『株式会社シンコーメタリコン』代表取締役社長 立石豊さんと『株式会社鈴木ヘルスケアサービス』代表取締役社長 鈴木則成さんに企業でのワーク・ライフ・バランス推進のための取り組みについてお話いただきました。両社とも、トップのリーダーシップの下、社員の生活やキャリアアップについての思いや現状を吸い上げて企業制度に組み込まれていました。



『株式会社シンコーメタリコン』立石社長

『株式会社シンコーメタリコン』では、社員全員が必ず7日間の連続休暇

を取得する「ドリームセブン」、子どもが生まれた男性社員が5日間の連続休暇を取得できる「イクメンファイブ」など、働きやすさを追求した様々な制度を整えられています。この制度を通じて、社員同士のコミュニケーションや助け合いの気持ちの向上も実現されています。



『株式会社鈴木ヘルスケアサービス』鈴木社長

『株式会社鈴木ヘルスケアサービス』では、従業員にアンケートを取り、要望の多かった時短制度や時間有給、子連れ出勤の制度を整えるとともに、男性の家事・育児への積極的な参画を推進することで仕事だけでなく、家庭生活についても共感し合える職場づくりを実践されています。

制度はあるものの、活用できる雰囲気なかなか作れない企業が多い中、活用していく風土を作っておられ、トップの思いと社員の思いを重ねて、

性別に関わりなく働きやすい環境を整えられていました。

就職を控えた学生は、今後このような制度が整えられている職場を選んでいくことで、就労におけるエンパワーメントとともに、生活におけるエンパワーメントも実現していく必要性を学びました。就職を考える学生にワーク・ライフ・バランスやジェンダー平等の視点が加わることで、企業の意識も変わり、社会全体の意識もかわっていくと考えられます。両社長ともに、「自社の取り組みが特別なものではなく、当たり前のことと認識される社会になることを望んでいる。」と力強くお話されました。

両社長のお話を受けて、キャリアコンサルタントの石倉和美さんとともに、自身のキャリアプランについて考えました。日本の育休制度の現状などのデータと、両社の取り組みから、自分自身の今後のキャリアを考えていくうえでどのような制度があるとよいのかについて意見交換を行い、育児やキャリアアップについて、自分自身が制度活用の風土を作っていくことが大切であり、それができることを学びました。

ユースリーダーの思い

私は男女共同参画社会づくり副読本の分析を行っています。分析を進めていく中で、最近若者のSNSやインターネットを通じての性被害などが増加している現状を知りました。性別にかかわらず、みんなが安心して暮らせる社会を作っていくために、正しい知識を持って正しく行動する人が増えてほしいです。(中星乃さん)



ジェンダー平等は少しずつ進んでいますが、未だ不平等な部分もあるように思います。その一つに指導的地位における女性の割合があります。私は女性管理職の研究をしています。この研究を通して、人々が性別にかかわらず生き生きと働ける社会にしていくなりたいと感じています。(鍵本里奈さん)



私は、ジェンダーを考える中で、性別にとらわれず、一人ひとりの人間として向き合うこと、お互いに助け合い、補い合って生きているということを更に意識するようになりました。この意識がもっと社会の当たり前になってほしいです。(中根歌穂さん)



「男性が育休を思うように取れない」という問題に着目して男女共同参画社会を研究しています。これからのジェンダー平等に向けて、「男の生きづらさ」が重要なキーワードの一つになると考えています。(八崎奈央斗さん)



男女共同参画



教育の場における「男女共同参画」

Q

男子は理系科目が得意で、女子は文系科目が得意って正しい？

A

PISA2015年調査では、OECD加盟国の科学の平均得点は、男子495点 女子491点と大きな差はありません。日本で理系に進む女子が少ないのは環境要因が大きいようです。

※PISA調査:OECD加盟国を中心として15歳の生徒を対象として読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野の習熟度を調査する試験

男女共同参画出前授業

若年層への啓発、学びの場の提供のために、センター職員による出前授業を実施しています。年度当初は新型コロナウイルス感染症対策で実施が難しい状況でしたが、これまで1500名以上の児童生徒に受講していただきました。教職員の人權研修としても活用いただいています。ジェンダーバイアス^{※1}は幼少期から刷り込まれていくため、早い段階でその課題について正しく理解するための視点を持つことが重要です。教育の場は、比較的男女平等といわれていますが、それでもジェンダーバイ

アスのかかった言動が見受けられます。子どもたちが性別にかかわらず、自分の進みたい道をあきらめることのないようにしていく必要があります。

出前授業では、一人ひとりの「ちがいがいい」について考え、友だちと考えを交流し、「ちがいを認め合うこと」や「互いの境界線を大切にすること」を学ぶ中で、どの学校でも「新たな気づきがあった」との声をいただきました。しかし、それは男女共同参画についての視点を持つことができていなかったことの表れでもあります。大人が発す

るジェンダーバイアスのかかった言動に触れることで、子どもたちの中にジェンダーの課題が再生産されてしまうことをしっかり認識し、改めなくてはなりません。



高等学校人權講演会の様子

授業後の声

これまで、DVや性暴力、ジェンダーなどを詳しく学んだことがなかったので、今回聞いたことをこれからに活かしたい。(中学生)

もっと他人を気遣えるように、考えを少しでも変えられるようになりたいと思った。(高校生)

デートDV^{※2}の被害にあっている子がいたら相談ののってあげたい。(中学生)



高等学校出前授業の様子

我々教師側の多様な見方、豊かな感受性、そして正しく知る事の大切さを改めて学びました。(教員)

自分も相手も自由があり、幸せな恋愛が理想だ。(中学生)

自分自身、無自覚に男女で差別、区別してしまっていることに気づくことができました。(教員)

デートDVの話は、恋愛だけではなく、様々な人間関係にも当てはまります。(高校生)

「Iメッセージ」を心がけると、精神的暴力を受けることも加えることもなくなると思うので実践していきたい。(中学生)

※Iメッセージ:「私(I)」を主語にしてメッセージを伝えること

子どもたちが大人になったときに、自分らしさを発揮していけるよう、中学生時代から支えていきたい。(教員)



中学校出前授業の様子

月
日
日
日
直

※1 **ジェンダーバイアス** : 社会的・文化的性差別、あるいは偏見のこと。男女の役割について固定的な観念を持つこと、社会の女性に対する評価や扱いが差別的であること。

※2 **デートDV** : 交際中のカップル間に起こるDVのこと。(詳しくはP3の二次元コードから)

